

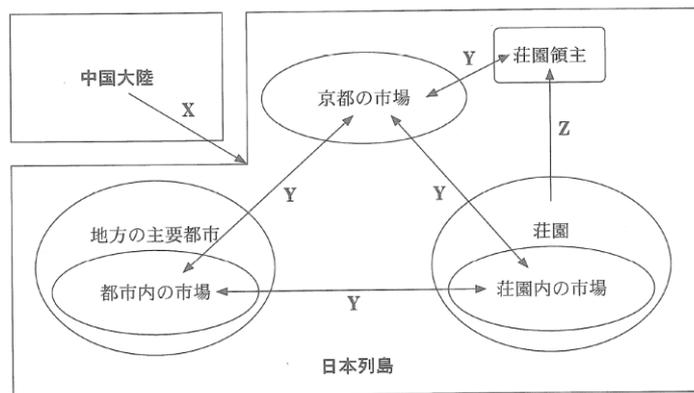
## 日本史B

## 第3問 問5

## 中世における経済の動きを模式的に示した問題

問5 ユウカさんとキョウさんは、中世の京都について調べた内容を踏まえて、中世における経済の動きの特徴を模式的に示し、次の図2にまとめた。中世の財貨の動きを示した図2の矢印X～Zと、それに該当する語句a～fについて、最も適当なものの組合せを、後の①～⑧のうちから一つ選べ。 16

図2



- |          |          |
|----------|----------|
| a 鑄造された銭 | b 産出された金 |
| c 為替     | d 借上     |
| e 代銭納    | f 酒屋役    |
- 
- |               |               |
|---------------|---------------|
| ① X-a Y-c Z-e | ② X-a Y-c Z-f |
| ③ X-a Y-d Z-e | ④ X-a Y-d Z-f |
| ⑤ X-b Y-c Z-e | ⑥ X-b Y-c Z-f |
| ⑦ X-b Y-d Z-e | ⑧ X-b Y-d Z-f |

## 出題の特徴

第3問の問5は、中世における経済の動きを模式的に示した図から、京都の市場や荘園、荘園領主などとの間で、どのような財貨の動きがあったのかを考える問題でした。用語の意味はもちろん、どこでその取引が行われていたかを判断する力が求められました。

## 指導のご提案

このような模式図の問題では、関係性や財貨の動きなどの仕組みを理解しておくことで、出題形式が変わっても対応することができます。

本問では、前提として用語の内容が正しく理解できていることが求められますので、まずは用語を正確に理解しておくことが重要です。そのうえで、「為替」や「代銭納」がどのように運用されていたのかを図示し、財貨の動きを追いながら仕組みを理解することが重要です。

## 2023年度大学入学共通テスト

「日本史B」

受験者数:	136,993人
平均点:	59.75点
標準偏差:	17.14

教材のご紹介

## 教材のご紹介 … 「進研WINSTEP 日本史B [三訂版]」



定価 930円 (税込み)

活用できる知識を習得し、解答する力を身につける

鎌倉時代や室町時代の経済の仕組みを理解するには、用語を確実に理解するとともに、時代背景などに関連づけて理解しておくことが重要です。問5では「為替」「代銭納」や中国銭が輸入されていたことを理解しておくことで正答にたどり着くことができます。

## 中世における経済の動きを考察する問題

STEP 1 10分間講義 大きな流れを理解し、時代の特徴をつかむ

**鎌倉時代の経済**  
鎌倉時代半ば頃から、農業技術が改良され生産力が高まってきました。牛馬を利用した農耕(牛馬耕)や鉄製農具が普及し、肥料としては刈藁のほかに草木灰などの利用がすすみ、畿内や西日本一帯では、麦を裏作とする三毛作が広まりました。生産力が高まるにつれて、さまざまな商品も生まれ、荘園・公領の中心地や交通の要地、寺社の門前などで月に3回ほどの定期市が開かれ(三斎市)、取引には北宋貿易で輸入された宋銭がさかんに使われるようになり、年貢の銭納も行われるようになりました。また交通の要地には、年貢の保管・輸送を担う問とよばれる業者もあらわれ、遠隔地取引には為替が用いられるようになりました。商工業の発展とともに、商工業者は産とよばれる同業組合を結成し、やがて生産や販売を独占するようになりました。また豊かになった者の中には高利貸業を営む者もあらわれ、彼らは借上とよばれました。

**室町時代の経済**  
室町時代には各地で二毛作が行われ、畿内では、米・麦・そばを栽培する三毛作も行われるようになりました。室町時代には飛躍的に増えていきました。農業や手工業生産が発達すると商業もさかんになり、応仁の乱後は月に6回市を開く六斎市も広まりました。商業の発達とともに交通網も広がり、各地の港湾が発展し、陸上交通では馬借や車借とよばれる運送業者が活躍しました。また土着・酒屋などの金融業者もあらわれました。

政権担当者	おもな出来事	中国・朝鮮・琉球他	鎌倉時代の経済
北条時宗	1274 文永の役 1281 弘安の役	1271 元建国	●鎌内、西日本一帯で二毛作 ●肥料として刈藁、草木灰が使われる
北条高時	1325 鎌倉幕府、建長寺船を元に派遣		●月3回の定期市 = 三斎市 ●運送業：問(問丸) ●金融業：借上
後醍醐天皇	1333 鎌倉幕府滅亡		
南朝 北朝	1334 建武の新政が始まる 1336 南北朝の分立	●鎌倉寺船と(2)が派遣された時、完との正式な国交はなかったよ	
足利義満	1338 尊氏、征夷大将軍となる 1342 尊氏、(2)を元に派遣		
足利義持	1392 南北朝の合体 1394 義満、太政大臣となる	1368 明建国 1392 朝鮮建国	
足利義教	1401 義満、明との国交を開く 1404 (3) (勘合貿易)の開始 1411 義持が明との国交を中断 これにより日朝貿易は一時的に中断、後に再開。 1419 (4) (朝鮮軍が対馬を攻撃)		●畿内では三毛作も行われる ●年貢の銭納が普及する
足利義隆	1429 高巴志が(5)を建国		●商品の流通がさかんになる ●月6回の定期市 = 六斎市 ●運送業：馬借・車借 ●卸売業：問屋 ●金融業：土倉・酒屋
足利義隆	1457 (6) 應仁の乱(～77)	●朝鮮・島(北海道南部)に住むアイヌによる銭起。	

入試頻出の知識を「使える状態」に整理し、3年生2学期からの本格的な実戦演習へ

「2024共通テスト対策【実力完成】直前演習 日本史B」(2023年6月発刊)